

令和7年度 静岡大学教育学部附属島田中学校 授業づくりセミナー

外国語科

【教科テーマ】

実践する英語—世界への架け橋となる生徒の育成
～やり取り型タスクの実践を通して～

— Today's Program —

- (1) 受付 12:50～13:00
- (2) 公開授業 13:10～14:00
【New Crown I Unit 8 Discover Japan】(1年生 授業者 松下浩人)
Task: Our Different Stories ～違いをみんなで楽しもう～
- (3) 研究協議 14:15～15:00
- (4) ワークショップ 15:10～16:25
【多様なやり取りを引き出すタスク・デザイン】
講師:奥住桂先生(埼玉大学 教育学部 准教授)
- (5) アンケート
QRコードよりご回答ください。
ご協力よろしくお願い申し上げます。
締切 2月5日(木)



《本年度の研究体制》

共同研究者 静岡大学教育学部	教授 矢野 淳
	講師 大瀧 綾乃
研究協力員 焼津市立大村中学校	教諭 石川 佳延
焼津市立大井川中学校	教諭 高木 勇里
菊川市立菊川東中学校	教諭 杉山 美加子
本校職員 鈴木 桂子 松下 浩人	

【お問い合わせ】

静岡大学教育学部附属島田中学校

〒427-0041 静岡県島田市中河町169番地 TEL:0547-35-6500

令和7年度 外国語科 教科テーマ

「実践する英語—世界への架け橋となる生徒の育成～やり取り型タスクの実践を通して～

1 研究目的

平成28年12月に行われた中央教育審議会の答申において、「グローバル化が急速に加速する現代における、外国語によるコミュニケーション能力はこれまでのように一部の業種や職種だけでなく、生涯にわたり必要となること」、「指導改善による成果が認められるものの、学年が上がるにつれて児童生徒の学習意欲に課題が生じるといった状況」、「中・高等学校においては、文法・語彙等の知識がどれだけ身についたかという点に重点が置かれた授業が行われ、外国語によるコミュニケーション能力の育成を意識した取組、特に『話すこと』及び『書くこと』などの言語活動が十分に行われていないことや、生徒の英語力では、習得した知識や経験を生かし、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて適切に表現すること」に課題があることが指摘された。それらを受け平成30年改訂学習指導要領では、「簡単な情報や考えなどを理解したり、表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成すること」が目標に設定され、その手段としての言語活動である「話すこと(発表)」、「話すこと(やり取り)」の重要性が挙げられた。「令和5年度全国学力・学習状況調査の結果」では、「『話すこと(発表)』の言語活動を行った」と回答した中学校は86.9%、「『話すこと(やり取り)』の言語活動を行った」と回答した中学校は76.8%であった。平成31年度の調査と比較すると、いずれの数値も上昇しており、各学校において実践が行われたことがうかがえる。同調査では、「即興で自分の考えを英語で伝え合う言語活動や、聞いたり読んだりした内容について英語で書いてまとめたり自分の考えを書いたりする言語活動を行っている学校と行っていない学校では、『英語の勉強が好き』という生徒の割合におよそ2倍の差が出ている。(行っている学校67.3%、行っていない学校33.6%)」とされており、コミュニケーションを図るための資質としての、自信や意欲をもって自分の思いや考えを友達に伝えるということができない生徒が多い現状があると考えられる。

本校では昨年度より、研究主題を「実践する英語—世界への架け橋となる生徒の育成～やり取り型タスクの実践を通して～」と設定し、生徒たちが英語を学ぶだけでなく、それを実際の社会で活用し、世界とのつながりを築くための能力を養いたいと考えた。「書くこと」「話すこと」だけの活動ではなく、ペアやグループにおけるやり取り型タスクを毎学期実施し、生徒の即興で話す力、反応する力の向上を目指した。生徒はテーマに沿った発表を考えるだけでなく、聞き手に配慮しながら、内容や方法をより良いものにしようとして工夫を重ねていた。発表をする立場、聞く立場、それぞれを何度も経験することで、即興かつ伝わる英語での意思伝達を実感することができると考えた。成果として2025年3月に2年生を対象に実施した質問紙調査によると、98.8%の生徒が「タスク活動に意欲的に取り組むことができた。」、95.1%の生徒が「タスクに取り組むことで、英語で話す力が伸びたと感じる」と回答した。自由記述では、「タスクで相手と話し合う中で、質問や巻き込む発表などで互いに理解を深めようとする姿勢の一步を踏みだせたと思う。」「的確に自分の伝えたいことを表現するために難しい単語を並べても、伝わっていないければ意味がない。聞く人に伝わる英語を使ってタスクに取り組むことが出来た。」「直訳せずに、自分がわかる言葉に言い換える力がついたと思う。留学生と話す時にその力を生かし、即興力と組み合わせることでよりスムーズに話せることができたと思う。」などの回答があった。このことから、タスクの発表に取り組むだけでなく、聞き手として相手の発表内容について質問をしたり、伝わっていないと感じた言葉をパラフレーズしたりすることを通して、より円滑に意思疎通が図れると実感していることが分かった。

昨年度より定めている研究主題の下で、生徒が英語を話すだけでなく、コミュニケーションの当事者であるという体験を通じて、人と話すことの楽しさ、気持ちが伝わる喜びを知りながら、社会につながる力を深めたいと考えた。生徒がタスク活動を通じて、知識・技能が実際のコミュニケーションにおいて活用され、思考・判断・表現することを繰り返すことを通じて学習内容の理解が深まるなど、資質・能力が相互に関係し合いながら育成されるよう、これまで本校で取り組んできた研究同様Task Based Language Teaching (以下、TBLT)をベースに、真正性のある実社会とつながるようなやり取り型タスク活動を効果的に設定していく。

<研究仮説>

生徒にとって真正性のある実社会とつながるようなやり取り型タスク活動を効果的に課すことで、①言葉を選ぶ力(相手とのやり取りの中でわかりやすい文や語句を選んで伝えられる力)を高め、②自分の思いや考えを表現する力(自分の思いや考えを理由づけて説明し、相手の考えと比較しながら、話題を広げたり話をまとめたりする力)を育成することができる。

今年度本校英語科では、昨年度に引き続き「書くこと」「話すこと(発表)」型タスクに加え、年間3回のやり取り型タスクを設定する。実社会とつながるような魅力的で生徒にとって必要感のあるタスクを設定することで、生徒の「話したい」「伝えたい」気持ちを引き出したい。様々なタスクに繰り返し取り組むことで、新しい語彙・表現を定着させ、繰り返し練習することで即興で話す力がついたという自信を身に付けさせたい。

2 研究方法(検証の手だて等)

- (1) 真正性のある(教室と実社会をつなぐような)タスクの設定
実際に英語を話す人に伝える、社会的な話題、実体験に基づく話題 など
(授業後の生徒アンケートやTask実施後の生徒の変容を共同研究者の大瀧先生に依頼する)
- (2) 様々な種類のやり取り型言語活動の設定
【挨拶、質問に答える活動、インタビュー】→【提案→質疑応答型】→【ディスカッション、ディベート】
- (3) 帯活動の充実
スモールトーク、スモールディスカッション、スモールディベート、レポーティング

 M e m o 

A series of horizontal dotted lines for writing.

◆ 外国語科授業案 ◆

授業者 松下 浩人

- 1 日時 令和8年1月29日(木) 13:10~14:00 1C教室
- 2 学級 1年C組 男子21名 女子15名(計36名)
- 3 単元名 Our Different Stories みんなで違いを楽しもう(9/10)
- 4 単元目標

互いの小学校生活の違いを知るために、通学していた小学校についての事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて紹介したり、相手からの質問に適切に答えたりすることができる。

(思考力、判断力、表現力等)

〈評価規準〉

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・過去形や過去進行形、look+形容詞といった文の特徴や決まりを理解している。 ・通っていた小学校について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、伝える技能を身に付けている。 	互いの小学校生活の違いを知るために、通学していた小学校についての事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、聞き手からの質問に答えたりしている。	互いの小学校生活の違いを知るために、通学していた小学校について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて、相手に配慮しながら伝えたり、質問に答えたりしようとしている。

〈評価基準〉

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声を押さえながら、ほぼ誤りのない英文で話すことができる。	3つの条件を満たした上で、通学していた小学校について、事実や自分の考えなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。	通学していた小学校について、積極的にやり取りしながら、絵や写真を効果的に用いたり、相手に聞きやすい声量や速さ、強弱などを意識したりして、聞き手に配慮しながら話そうとしている。
b	誤りが一部あるが、理解に支障がない程度の音声や英文を用いて、つまづくことがあっても話すことができる。	2つの条件を満たした上で、通学していた小学校について、事実や自分の考えなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。	相手とやり取りをしながら、絵や写真を用いたり、聞き取りやすい声量で話したりするなど、聞き手を意識しながら話そうとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

【条件】①小学校の思い出や自分の気持ちについて語っている。

②聞き手の質問に適切に答えたり、関連した話題について話したりしている。

③聞き手の質問に答えるだけでなく、質問を投げかけて話を広げるなど、会話を広げながら続けている。

5 単元観

今回学習する単元は、教科書の登場人物であるケイトが、マークや陸と家族旅行の思い出について話している場面である。デジタル教科書には、ケイトが投稿したブログ記事についてマークが話しかける場面と、長野に滞在しているケイトに陸が電話をかける場面もリスニング教材として収録されている。それぞれの場面では、旅行の感想や旅先での天気を尋ねるといった文脈や、スキーをしていて電話に出られなかったという文脈で過去形や過去進行形が使われている。be 動詞の過去形と過去進行形が新出の文法であり、思い出やその日の出来事を語る中で自然と不規則変化動詞の過去形も多く使われている。Side Storyにおいては、ケイトからお土産をもらった陸が笑顔で歩いている様子から、What's up, Riku? You look happy.と声をかけられる場面が描か

れており、look+形容詞の「～に見える」という表現も扱われている。これらの表現を踏まえ、互いに興味をもってやり取りができるタスクを考え、生徒自身が通学していた小学校をテーマにすることとした。

本校には島田市周辺、さらには遠方の静岡市や袋井市などからも生徒が通っており、それぞれが異なった6年間の小学校生活を送っている。本単元では教科書の内容を扱いつつ、それぞれの小学校生活を思い出したり、紹介したりする活動を少しずつ交えながら、卒業した小学校の紹介を行う活動に向かっていきたい。小学校生活を振り返る中で、過去形を用いて思い出を語ったり、自分の学校にはない特色について質問をしたりする中で、自然と会話を続けながら互いの小学校生活の違いについて理解を深めていく姿に期待したい。

タスク活動では、小学校の記憶をマインドマップにまとめ、その内容について相手を変えながら複数回会話をを行い、自分が英語で話せる内容をまとめていく。自分が話せる内容、相手に伝わる内容を把握しながら、やり取りのきっかけとなる1分程度の短い文章(Short Suggestion)をまとめていく。自分の小学校についてのおおまかな紹介を行う部分であり、これについて生徒はGoogleドキュメントにまとめていく。文章の正確さを担保し、安心して会話が行えるようにするため、授業後に教師がドキュメントの添削を行っている。Short Suggestionを話した後は、その内容についてペアの生徒やグループの生徒と即興的なやり取りを行っていく。練習のグループは毎回ランダムに席を変えて行っていく。相手を変えてさまざまな質問や反応をしてもらうことがねらいである。What kind of event is that? What did you do there? How was it? It sounds fun.といった質問や反応をもとに、自然と会話を継続させていく姿につなげていきたい。

6 生徒の実態

【アンケート結果抜粋】(五件法, 回答者 106名) 令和7年12月実施

質問項目	肯定率
英語の勉強は大切だと思う	92.5%
タスク活動に意欲的に取り組むことができた。	92.5%
今回のタスクに意欲的に取り組むことができた。	92%
タスクに取り組むことで、英語で即興的に話す力が伸びたと感じる。	79%
発表者に積極的に質問することができた。	48%

1年生は今年度、「My Favorite Things」「My Hero」「My Treasure」「Introduce a Member of Shimafu」「My Ideal School」「My Best Memories of 2025」などのタスクに取り組み、発表型の話すことからやり取り型の話すことへと、タスク活動を段階的につなげてきた。初期の2つのタスクでは、語彙や表現を選択して発信を中心に行い、「My Treasure」ではヒントを基に聞き手が質問して当てるクイズ形式とすることで、発表を一方通行にせず聞き手の役割を明確にした。「Introduce a Member of Shimafu」では友達や先生といった第三者の紹介を行い、表現・発音の違いで伝わり方に違いがあることに気づき、相手にとってわかりやすい言い方の必要性を実感した。「My Ideal School」は4人の小集団で発表と即興の質疑応答を行い、2学期末の「My Best Memories of 2025」では、やり取りのきっかけとなる short suggestion のみを暗記し、そこから即興的なやり取りを経験してきた。

アンケート結果からは英語学習やタスクへの意欲がうかがえ、記述にも「相手に合わせて自分の言葉で話すことを意識できた」「伝わって成立する時が楽しい」といった声が見られる。授業中も、スモールトークにおいてペアの生徒に質問を投げかけたり、わからない表現があるときには小集団で一緒に考えたりするなど、相手に届く伝え方を探る姿がある。一方で「発表者に積極的に質問ができた」への肯定的な回答は少なく、「相手が言ったことを理解して、その内容に関連づけて聞きたいことを分かりやすく伝えることが難しい」という記述も見られた。1年生ということで語彙や表現が不十分なことや、内容理解への自信のなさが要因として考えられる。そこで、継続的にやり取り中心のタスクを設定し、内容が一度で捉えきれない場合でも、質疑応答を繰り返したり、表現を変えたりすることで理解が深まっていくことを実感させたい。こうした経験の積み重ねにより、英語でのやり取りへの自信を高め、前向きに対話を続けようとする態度の育成につなげていく。

アンケートの記述には「自分と違う内容を聞くのが楽しい」「表現の違いが勉強になった」とあり、今回の小学校の特色・イベント・思い出を語る活動でも違いを楽しみつつ、課題である質疑応答を少しでも充実させながら、対話を続けていく姿に期待したい。

7 単元計画

時	<課題> ・ 生徒の活動 目指す生徒の姿	知	思	態
第1時	<be 動詞の過去形を理解しよう> ・ Sing a song ・ Small Talk and Small Write ・ Reading Lesson 8 Part 1 ・ Talk about memories of your elementary school <u>Small talk や教科書の読解を通じて、be 動詞の過去形について理解し、小学校の思い出について話すことができた。</u>			
第2時	<過去進行形を理解しよう> ・ Sing a song ・ Small Talk and Small Write ・ Reading Lesson 8 Part 2 ・ What were you doing then? <u>Small talk や教科書の読解を通じて、過去進行形の文構造を理解し、過去の出来事について伝えることができた。</u>			
第3時	<look+形容詞を理解しよう> ・ Sing a song ・ Warm-up activity ・ Reading Lesson 8 Part 3 ・ Describe Emotions <u>教科書の音読やアクティビティを通じて look+形容詞の文構造を理解し、自分の気持ちを表現することができた。</u>			
第4時	<Task: Our Different Stories Design your task & Make a short suggestion> ・ Sing a song ・ Making a mind map ・ Talk about memories of your elementary school ・ Make a short suggestion <u>友達との会話を通じて、自分の思い出を short suggestion にまとめることができた。</u>			
第5時	<Task: Our Different Stories Make a short suggestion> ・ Sing a song ・ Talk about memories of your elementary school ・ Make a short suggestion <u>Short suggestion を作る活動を通じて、班員に自分の思い出を伝えることができた。</u>			
第6時	<Task: Our Different Stories Prepare for your conversation①> ・ Sing a song ・ Prepare your conversation ・ Practice <u>小集団でのやり取りを通じて、班員に思い出を伝えることができた。</u>			
第7時	<Task: Our Different Stories Prepare for your conversation②> ・ Sing a song ・ Prepare your conversation ・ Practice <u>小集団でのやり取りを通じて、班員に思い出を伝えることができた。</u>			
第8時	<Task: Our Different Stories Practice in your group of 4 ①> ・ Sing a song ・ Warm-up Talk ・ Practice with your partner ・ Practice in your group of 4 <u>小集団でのやり取りを通じて、班員に思い出を伝えたり、班員の発表について質問したりすることができた。</u>			
第9時 (本時)	<Task: Our Different Stories Practice in your group of 4 ②> ・ Sing a song ・ Warm-up Talk ・ Practice with your partner ・ Practice in new group of 4 <u>小集団でのやり取りを通じて、班員に思い出を伝えたり、班員の発表について質問したりすることができた。</u>			
第10時	<Task: Our Different Stories Enjoy talking in your group of 6> ・ Sing a song ・ Warm-up Talk ・ Enjoy talking in your group of 6 <u>6人班でのやり取りを通じて、班員に思い出を伝えたり、班員の発表について質問したりすることができた。</u>	○	○	○

8 本時の指導

(1) 授業名 Our Different Stories Practice in Your Group of 4② (9/10)

(2) 目標 小集団でのやり取りを通じて、班員に小学校の思い出を伝えたり、班員の発表について質問したりすることができる。

(知識・技能)

(3) 授業構想

本時では前時までに準備したプレゼンを、新しい小集団で練習する時間である。最初にペアの生徒と練習を行い、やり取りの中で困った表現や工夫した表現を確認し、中間評価を行う。その後は前時と違う小集団で練習を行い、聞き手の生徒は内容のメモをとる。小集団の練習後に元の座席に戻り、メモを基にペアへ要点の報告を行う活動(reporting)を聞き手の生徒の課題とする。小集団の練習では、やり取りの中でパラフレーズや質疑応答を重ね、相互の理解を深めていく姿に期待したい。

(4) 授業過程

学習活動 (㊟主な発問・課題 ○その他の発問 ・生徒の活動)	・支援及び留意点 ◎評価	形態・時
〈warm up〉 ・ Sing a Song ・ Small Talk ○ You are making presentation about your elementary school. Today, you will make new groups. Let's practice with new group members.	・ 英語に対する情意フィルター (不安・自信のなさ) を取り除くための雰囲気づくりを行う。	一斉 (5分) ペア (4分)
① Practice with your partner. ・ ペアで練習を行う。	・ アイコンタクト、質疑応答による会話の継続を全体に促す。	ペア (5分)
② Give advice to your partner. ・ ペアで練習後、互いにアドバイスを送る。 中間評価 表現をパラフレーズすることで伝わりやすさが増えることを共有する。	・ 質問や表現の仕方を全体で確認する。	ペア (5分)
③ Make your presentation better. ・ 中間評価の内容を振り返り、プレゼンを修正したり、練習したりする時間をとる。	・ パラフレーズして伝えている例があれば紹介する。	個人 (5分)
④ Practice with your new group members. ・ 4人の小集団で順番に発表を行う。	・ 班員の発表は簡単なメモを取って、後でまとめを行う。	グループ (18分)
⑤ Reporting ・ 最初の座席に戻り、小集団で聞いた発表をペアの生徒に伝える。	・ 手もとの日本語のメモを参照しながら簡潔に伝えるよう伝える。	ペア (8分)
小集団でのやり取りを通じて、班員に思い出を伝えたり、班員の発表について質問したりすることができた。	◎本時では評価しない。	

(5) 本時の視点

① 提示したタスク活動が生徒の興味・関心を引き付け、意欲的にやり取りを行うための手立てとして適切であったか。

② ペアでのアドバイスや中間評価を受けて、その後のプレゼンの内容や伝えようとする内容に変化が生まれたか。